

三智創造

湯梨浜中学校だより

『礼輪笑活（れいわしょうかつ）』

湯梨浜町立湯梨浜中学校

校長 梅津 寿文

令和3年3月15日 最終号

【 他人が幸せなら自分も幸せ！ 】

《卒業式の校長の式辞より》

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。振り返れば特にこの一、二年は激動の年でした。旧中学校の片付けから新校舎への移転、新しい仲間や先生方との出会いと新生活、場所も人も活動も変わる中で、その変化に慣れるだけでも大変なことだったと思います。これだけ厳しい環境の中での三年間を皆さんは本当によく耐えて前向きに活動してきました。時間と内容を大幅に制限された「運動会や文化祭」を生徒自らの手で成功させ、学校の主役として学習や生活の向上に取り組みました。さらには、生徒会中心の活動を充実させ、生徒主役の学校づくりの流れをしっかりと定着させました。

今年の部活動では、全国大会や中国大会、そして県総体までもが中止となり、これまでの成果を試すことさえできないとても残念な年となってしまいました。そうした中でも中部地区駅伝では男女ともに準優勝して県大会に出場、県大会では女子の大活躍もあり、男女ともに入賞したことは今年の数少ない嬉しいニュースの一つでした。文化部も日々の活動にしっかりと取り組みました。

思い出づきという点では、残念ながら修学旅行には行けませんでした。高校入試の面接練習で聞けば、三年間の一番の思い出は「ゴートゥー湯梨浜」だと答えた人が何人かいました。地元の湯梨浜を巡ってみて改めて肌で感じた湯梨浜の魅力、地域の方々との触れ合いが三年間の一番の思い出になったことは、本当に素晴らしいことで一生忘れずにいてほしいと思います。

私としては、日々の朝の挨拶や給食時の音楽のプレゼントくらいしかできず、欲を言えば、『もっともっと少しでも多くの思い出を創ってあげたかった。みんなの笑顔や喜ぶ姿をもっとたくさん見たかったな』と思います。それでも、面接練習の時の皆さんの真剣な表情とまなざし、普段には目にしなかった立派な姿はとても頼もしく見えて、終わった後の緊張感から解放された笑顔がとても可愛くて素敵でした。皆さんと直接ふれ合えた数少ない貴重な一時でした。

ところで、新型コロナウイルスによる影響力はまだまだ続きそうで、医療関係や介護関係の方々はもちろん、全ての職種の方々へ多大な影響を与えているところです。そうした中、先日TVのある番組で「昼のお弁当」を売られている方々を紹介している中で、ご病気等で外出できずに自宅で静養されている方々へほとんど無償でお弁当を作り、わざわざ運んでおられる上に、さらに生存確認までされている若い世代の方々がおられることを紹介していました。お弁当は普通に売られても500円以上はしそなたとても美味しそうなお弁当でした。「元気になったらその時に払ってもらってもいい」との話でしたが、ご自身も厳しい生活を余儀なくされている中、何と驚くことに、そのお店の方が言われたのは「他人が幸せなら自分も幸せ」という言葉でした。飲食業界の方々も大変厳しい状況が報道される中、こうしたお気持ちで活動されておられる方があることに大変感動し、とても頼もしく感じました。

一方では、この感染症騒ぎでも傷ついている人々に対して心ない言葉を浴びせて差別したり、犯罪行為をする人たちが無くないこの世の中で、この度のお話は、本当に心を洗われて幸せな気持ちにさせられるお話でした。今まで、こうした式典では有名人や偉人の名言を紹介してきましたが、「特別なことがごく自然に、当たり前のようにできる」、そんな名も無きヒーローやヒロインたちが、ごく身近なところにいることに気づくことができました。卒業生の皆さんがこれからそれぞれどんな分野で活躍し、どんな社会・日本を創ってくれるのかとても楽しみです。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。保護者の皆様が日ごろから注いでこられた愛情の深さに心から敬意を表しますとともに、これまで本校教育に対するご理解とご支援をいただきましたことに、深く感謝いたします。本来でしたら町長様をはじめ、多数のご来賓の方々、地域の皆様方にもご臨席を賜り、卒業生の門出を盛大に祝福していただくところですが、この度の感染症対策を万全にするためにメッセージでお祝いをいただいておりますのでお読みください。

それぞれの道に向かって進んでいく卒業生のみなさんのご健康とご活躍を心より祈念いたします。

この場をお借りして私事で恐縮いたしますが、私もこの3月末でこの三十数年間続けてきた本職務を卒業させていただきます。縁があって「北浜・東郷を合わせて三つの中学校全てで、湯梨浜町に十二年間もお世話になりました」長きにわたり、教職生活の三分の一ほどはこの地で勤めさせていただきました。満足な仕事もできず、お役に立てないばかりかたくさんのご迷惑をおかけしたままこの地を去ることは大変心苦しいことです。前任当時の若かりし頃、情熱と熱い思いだけは誰にも負けなかったと自負してはいましたが、このような身勝手で力不足の一教師を温かく見守ってくださり、育てていただいた湯梨浜町に感謝し、地域・保護者の皆様に厚く御礼を申し上げ、お別れのご挨拶とさせていただきます。

生徒たちとともに幸せな日々を過ごさせていただき、誠にありがとうございました。湯梨浜中学校の益々の繁栄と、皆様のご多幸をお祈りいたしております。

